

先端都市特別研究員(若手)としての経験

湯山篤

(ソウル大学校博士課程)

1. 契機

2000年から2006年まで

- 栃木県の宇都宮大学
- 同和問題、在日外国人、ハンセン病、拉致問題など
- 教育学の学士号および修士号を取得しました。

2007年

- 渡韓
- 海外の大学、海外の大学生
- 大学の第2外国語
- 2004年、内閣府(日本)と文化観光部(韓国)の日韓青少年交流事業
- サッカーワールドカップの日韓共催、韓流ブーム、日朝首脳会談
- 地方の国立大学
- 宇都宮大学の指導教官、他大学の先生、韓国の大学教授

1. 契機

- 教育学から社会福祉学へ
- 宇都宮大学で人権教育の講義
- それを実践している福祉の分野
- 韓国の社会事情に根ざした研究を活発に行っている分野で学びたい

2010年

- 私費で西江大学の修士号(社会福祉学)
- 2010年には韓国政府の奨学金でソウル大学に進学

2011年

- ソウル大学の日韓ホームレス比較研究プロジェクト
- ソウル市で開かれたホームレスの国際ワークショップ
- 大阪市立大学の阿部昌樹先生、水内俊雄先生、全泓奎先生

2. 先端都市特別研究員(若手)としての経験

大阪市立大学

- 日本の福祉研究を力強く牽引
- 都市研究プラザの精力的な活動：国際比較研究、国際ネットワーク

「東アジア包括都市ネットワーク・ワークショップ」

- 台北(2011年、2015年)、ソウル(2012年、2016年)、大阪(2013年、2017年)、香港(2014年、2018年)の4つの都市を回る
- 8年間
- 当初は研究者と民間団体。今では海外の行政機関(主に、地方自治体)も参加
- 『包摂都市を構想する：東アジアにおける実践』(2016年、法律文化社)
- 特別研究員(若手)として補助

2. 先端都市特別研究員(若手)としての経験

一つ目

- 通訳や翻訳
- 都市研究プラザのワークショップ、現地調査、書籍出版
- 国際共同研究に必要な知識を補充する貴重な機会

二つ目

- 様々な立場で様々な分野から学習
- 居住支援、社会的企業、職業体験、多文化共生、地域づくり、フリースクールなど
- 民間団体、韓国保健社会研究院(韓国の国策研究所)、ソウル研究院(ソウル市の市政研究所)、韓国都市研究所(韓国の民間研究所)の研究者、労働部(労働分野を管轄する韓国の中央省庁)、ソウル市、始興市(韓国の京畿道にある市)、城東区(ソウル市内の区)の公務に従事する方々、SH公社など住宅公社
- 大阪市立大学都市研究プラザで開かれる研究報告会：市大の先生や大学院生

2. 先端都市特別研究員(若手)としての経験

三つ目

- 国際共同研究の感覚
- 日本のどの機関が韓国のどの機関？
- 日本には(あるいは韓国には)どういう政策があってどういう政策がない？
- 都市研究プラザ：地理、法律、福祉、芸術など様々な領域から都市の課題にアプローチ

3. おわりに

国際研究

- 海外と比べて国内を修正・応用、海外に先駆的な事例を紹介
- 研究機関のみならず、国や企業が法律、産業、経営、教育、雇用、福祉など

都市の課題や福祉の課題を扱う分野

- 人口構造の変化、産業構造の変化、科学技術の進歩で激変
- 都市研究プラザ：都市や福祉の分野で「知恵の共有」
- 個別の努力：業務の合間を縫って無償で身を切って手探り
- 英語での交流が活発な欧米圏とは異なり、東アジアをつなぐ国際共同研究というのは地道で持続的な取り組みに支えられている